

技法解説

～ 明治・大正期の職人技 ～



盛り上げ [迫力・立体装飾]

盛り上げは、陶磁器を立体的に見せる技法でオールドリタケの最も代表的な技法で、欧米でも【MORIAGE】で通用する程、有名な装飾技法です。デコレーションケーキを飾る時に使用する生クリームを絞り出すような道具を用いて、装飾を行います。職人の精緻な装飾技術で、現代では再現不可能であり、見れば見るほど圧倒される技術です。



ビーディング [職人細密美技]

盛り上げ技法の一種で、細かく点状に盛り上げて金彩を筆で装飾したものになります。丹念な職人技で花瓶や皿などの高級品によく用いられた装飾技法で、青色のものを特にアクアビーディングと呼び、非常に綺麗な色合いで現存しているものは多くありません。現在の技術や採算の面からも再現は不可能といっても過言ではない程の根気のいる装飾技法になります。



タペストリー [布目転写]

通常の花ペストリーは、生地の上に麻布を張って、焼成すると布が焼かれて布目の付いた生地が出来上がります。そこに絵付けをして、絵画的な演出をする際に用いられます。リタケの花ペストリーは焼成前の生地に布目を転写した後に焼成する方法を取っています。オールドリタケの中でも特に入手が困難なアイテムの1つで、使用されている裏印はほとんどメープルリーフ印になります。

技法解説

～ 明治・大正期の職人技 ～



金盛り [豪華絢爛]

金盛りは、装飾として点、点線、線などを泥漿で描き、焼成した後金液を筆などで塗り被せて仕上げる技法です。欧米では人気のあった豪華絢爛な装飾で、高級品の装飾技法として普及しています。オールドリタケでよく用いられている金液は、金の延棒を濃塩酸と濃硝酸を体積比で3対1に混ぜた溶液で溶解し液状にしたものを使用していました。



コバルト [華麗な瑠璃色装飾]

一般的に青色顔料はコバルト化合物を使用しますが、リタケでは鮮やかな瑠璃色を出すために酸化コバルトを使用しました。リタケは民窯として経営と利益を考えたものに対して王宮の大きな庇護の下で品質を追求した官窯の仏セイブルの"KING OF BLUE"とは異なります。



宝石盛り [ジュール・エナメル盛り]

金彩の仕上げとして併用された装飾技法で、光沢のあるガラス状の粒をのせ、作品を豪華に仕上げます。焼成温度が高いと剥離し、低いと貼り付かないという技術的に難しい装飾技法です。エナメルは、1710年頃のドイツのマイセン磁器に既に使用されていたと言われてて、非常に古くから伝わる装飾技法です。